



学会ホームページ <http://jasce.jp>

048号(2019年1月18日)

目次

2019年 年頭のご挨拶
次期大会開催地からのご挨拶
国際協同教育学会 2019
台北大会情報
『協同と教育』への投稿募集中
会員情報の変更届け
会費の納入のお願い
学会ワークショップ
開催報告
今後の予定(判明分)
各地の研究会・勉強会

2019年 年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます。

本年も会員の皆様の実践、研究の発展の年となりますことを祈念いたします。

2014年、当時の会長関田さんの新年のご挨拶には、本学会も設立10年を経て、幼少年期から「子どもから大人への成長著しい」青年期に入ったという記述がありました。2019年度は青年期も半ばに差し掛かったところということになります。

協同教育学会という個性ある若者が成長発達するためにはさまざまな葛藤を経験することも大事です。昨年11月、大阪の梅花女子大学で開催された第15回研究大会は、協同学習に40年以上かかわってきている私にとってもとても刺激的なものでした。この経験は第1回から続いてきており、迷い、学び、挑戦するという成長のための栄養分が実にたっぷり含まれてい

る体験であったと思います。実践現場と研究室との交流も自然な形でなされており、教育研究にはとても意義のある連携の場としてこの学会が機能してきたというのが私の感想です。青年がどんな大人になっていくのか、楽しみです。

さて、2019年は台北教育大学、国際協同教育学会(IASCE)とわれわれ日本協同教育学会の共催で国際協同教育学会大会を開催します。3月21~24日の日程で、会場は台北教育大学です。運営を担当する理事、会員の努力もあり、楽しみな大会になりそうです。本学会からも20件に近い研究発表、講演などを行い、日本の協同学習研究を紹介します。ぜひ大会を知らせるHPをご覧ください。

また先にお知らせした学会設立15周年記念行事としての『日本の協同学習』も、多くの執筆者の参加を得、この12月に脱稿しました。刊行を早めるべく出版社を急かせています。日本の協同学習のこれまでとこれからを展望する魅力ある本になったと思います。会員の方々には無料でお送りする予定をしていますので、楽しみにお待ちください。

私も本書の編集に携わったのですが、協同教育学会が作ってきた道は教育の幹線道路になるべき本筋だということを改めて感じるができる作業でした。この道がますます広がり、多くの人々が日常的に通ることを期待したいと思っています。

2019年1月1日

日本協同教育学会会長 杉江修治

次期大会開催地からのご挨拶

来年度の第16回大会は10月25日(金)~27日(日)に高知大学朝倉キャンパスで開催いたします。幅広い研究・実践が報告され、新元号とともに、この土佐の地から新しいアクションやヒントが溢れ出る大会になるように準備を進めてまいります。

高知大学では10年以上にわたり社会協働教育プログラムを推進してきており、2015年には38年ぶりとなる新学部「地域協働学部」を開設し、地域協働による教育を全学的に展開しています。初の四国開催となる本大会では、教室内だけでなく学校と地域の協同・協働といった活動も視野に入れながら、協同教育の可能性を探っていきたいと考えております。多くの皆さまのお越しをお待ちしております。

第16回大会実行委員長

高知大学 俣野秀典

国際協同教育学会 2019

台北大会情報

台北でのIASCE国際大会(3月22日~24日、前日21日プレ大会)が近づいてきました。日本協同教育学会から10名の理事が参加します。当学会経由の日本からの発表は17件予定され、それらの発表者を13名がサポートします。

杉江先生(当学会長)の基調講演は22日15:30~、「生涯業績賞」の授賞式は23日17:20~、大会ディナー(事前予約必要)は23日18:30~です。

なお、現地で地下鉄を利用する場合、券売機での切符購入にクレジットカードが使えないので台湾ドルの現金を用意しておかれるとよいでしょう。

JASCE

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています。論文の投稿に締め切りはありません。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月を要します。これまでのところ、12月末までに査読が終了し掲載が決定した論文は3月に刊行予定の「協同と教育」に掲載されております。

編集委員会では学会機関誌『協同と教育』第15号(2020年3月発行予定)に向けての積極的な投稿をお待ちしております。

会員情報の変更届け

年度がわりの異動や転居などによって、所属・住所・メールアドレス等の変更があった場合、すみやかに会員情報変更をお願いします。届け出は学会ホームページの「会員情報変更フォーム」から随時可能です。

(<https://www.jasce.jp/php/1044form.php>)

会費の納入のお願い

本年度の会費4,000円を納入していない会員の方は、早急の納入をお

願いいたします。次の口座にお振込み下さい。3年度を超えて会費が未納となった場合、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。

◇銀行振込の場合

金融機関名 ゆうちょ銀行
支店 〇一九
口座番号 (当座)0315442
名義 日本協同教育学会

◇郵便局で「振込取扱票」をお使いの場合

口座記号・番号 00100-8-315442
加入者名 日本協同教育学会

学会ワークショップ開催報告

<ベーシック>

2018年12月1日(土)～2日(日)【主催】

会場:中京大学(名古屋市)
名古屋学舎0号館0604教室

講師:水野正朗

今回のW.S.は12人の受講者と参与観察1人の参加がありました。看護・大学・高校・塾・専門学校と幅広い校種から集まった皆さんでしたが、講座の初めから校種の違いを感じさせない積極的な意見交流が多くの場面で見ることができました。

最後のキーワードまとめでは「学びをより深めるために他者との協同による学び合いが必要なことを体験した。」「個々が平等に参加できることが保証された環境において、個々がグループに貢献する中で深い学びを達成できることを体験した。」等の感想が寄せられました。

協同の学びが、より広い現場に広がる可能性を感じた2日間でした。

(水谷茂)



学会ワークショップ 今後の予定(判明分)

<ベーシック>

2019年3月9日(土)～10日(日)【主催】

会場:創価大学(八王子市)
教職大学院棟 V409教室
講師:太田昌宏

<アドバンス>

2019年3月9日(土)～10日(日)【主催】

会場:創価大学(八王子市)
教職大学院棟 V309教室
講師:伏野久美子

定員になり次第、受付を終了します。申込み方法、ならびにワークショップの詳細は下記URLをご覧ください。
(<https://jasce.jp/1031workshop.php>)

JASCE

各地の研究会・勉強会

(北海道地域)

協同で学ぶ授業・学級・学校づくり学習会

◇12月8日(土曜日)13:00~16:30、41名の参加者を見て第一回目の「協同でつくる学校、学級、授業づくり学習会」を空知管内美瑛市立美瑛中学校にて開催いたしました。当日は北海道特有の吹雪混じりの悪天候となりましたが、遠路北見市(高速道路で4時間)からもご参加頂きました。小学校、中学校、高等学校の教頭・校長先生の参加が28名、研究部長や教務主任など学校リーダー含め教諭は13名で、講師は私(石垣)が務めました。学習内容は、協同学習を中核とするアクティブラーニングによる教育改革の背景と改革の意味、協同学習の原理や定義、実際の授業づくり。ワークショップ形式で行いました。学校管理職の皆さんには協同学習の自校への導入に向けて必要な説明をさせて頂きました。参加者はみな学校づくりに意欲を持たれている方々であり、充実した学習内容とすることができました。終了後は、懇親交流会を開催し、教育談義に花を咲かせました。

◇次回は2月を予定し、授業DVDを



視聴後、協同による授業づくりについての授業交流を行う予定です。

連絡先:石垣則昭

(北海道医療大学心理科学部
ishigaki7634@dream.bbexcite.jp)

(東北地域)

協同学習を学ぶ会 in 福島

◇12月8日(土)13:30~16:30、福島県立安積黎明高等学校・花かつみ会館で第3回「協同学習を学ぶ会 in 福島」を開催しました。年末のお忙しい中、21名の先生方にご参加頂きました。テーマは「協同学習を核としたアクティブラーニングの可能性~教科教育と生徒指導の一体化と全教育課程での実施の勧め」で、講師は福島県スクールカウンセラーの渡辺が担当しました。内容は協同学習の持つ教科教育と生徒指導の同時学習を教科教育のみならず、本質的に協同性を必要とする学級経営や児童会・生徒会活動、行事の遂行や部活などの特別活動でも実践すべきだという前提に立った学習です。今回は話し合いや学び合いを効果的に進めるためには主張訓練や傾聴訓練を含めたコミュニケーション能力の育成、学習集団の関係性の問題も大切ということで、日本学校教育相談学会福島県支部との共催で行い、互いの問題意識を高め合いました。

申込先:渡辺正雄

(協同学習を学ぶ会 in 福島 世話人
nrc38822@nifty.com)

(名古屋・東海地域)

Learning Design Community
(静岡県)

◇12月1日(土)韮山高校(志龍講堂)において、学びのイノベーションフォーラム「韮山サミット」を実施しました。新しい時代に対応した教育の実現と内容の充実を目指して、現在全国各地で現場の教員による勉強会も多く開催されています。その様な動きを相互交流によって共有してみたいという考えから、今回のフォーラムを実現させました。

会場校長挨拶後の基調講演は、野本竜哉氏(Z会)「ICTを用いた教科横断の課題研究―『未来の教育』実証事業から見えてきたもの」。我々の会からは大村勝久氏(静岡県立浜松北高等学校教諭)が「3年間の活動のふり返りと会の目的・目標」について報告しました。さらに、吉川牧人氏(静岡県立掛川西高等学校教諭)「プロジェクトマッピングで地域興し」、杉山浩二氏(ロイノート社長)によるアプリ活用講座、島谷二郎氏(大阪大学基礎工学研究科博士課程2年)「話しやすい場作りのためのロボット利用」、服部弘幸氏(岐阜県立郡上高等学校校長)「地域協働で学校改革へ/カリキュラムマネジメントの推進」、溝上広樹氏(熊本県立熊本北高等学校教諭)「アクティブラーニングで授業と組織をつくる」などの報告や講演が続いた後、溝上氏のファシリテーションのもとICTを活用した締めくくりを行いました。当日は北海道から九

JASCE

州まで76名が参加され盛況でした。2日目には地元を巡る半日ジオツアーも実施しました。

事務局:鈴木映司

(静岡県立韮山高等学校)

名古屋・協同の学びをつくる研究会 (愛知県)

◇2018年度12月例会を12月5日(水)午後7時から名古屋大学教育学部共通講義棟第2講義室で開催しました。発表者は高野芳幸先生(横須賀市立横須賀総合高等学校教諭)。テーマは「美術教育(実技系教科)における深い学びの実現」でした。美術教育のための生きた実践理論と具体的な授業方法が事例にもとづいて豊富に報告され、まさに「目からうろこが落ちる」研究会となりました。

連絡先:水野正朗(東海学園大学
mizunokita@yahoo.co.jp)



(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇2019年1月の研究会は、予定していた「哲学カフェ」が時間の関係で実施困難となりました。そこで今回は看護教育における協同学習の実践が「誤った・浅い・危ないアクティブラーニングに陥らないために必要なことは何か」についてのディスカッションを計画しました。協同の精神と協同について再認識し、協同学習による授業で目指していることは何か、その実現に必要なことは何か、忌憚ない意見交換を次年度のより良い授業づくりに活かしたいと考えています。ゲストに明星大学の太田昌宏先生、医学書院の藤居尚子さんをお迎えます。

◇2018年度の開催予定

場所:グランフロント大阪北館2階
ナレッジキャピタルThe Labアクティ
ブスタジオ

時間:19時~21時、日程:2019年
1月25日、3月29日。

参加申込先:緒方巧(梅花女子大
学 t-ogata@baika.ac.jp)

(岡山・中国方面)

協同学習研究会

◇本年度第3回の研究会を12月1日(土)14時から開催しました。岡山県立水島工業高等学校の居上真也先生による理科(化学基礎)、単元名は「アルカリ金属の性質を確かめる/電子配置と周期表」でした。

◇今後の開催予定

場所:岡山大学教師教育開発セン

ター東山ランチ

時間:14時~17時30分、日程:
2019年3月2日。

連絡先:高旗浩志

(岡山大学教師教育開発センター
takahata@okayama-u.ac.jp)

(福岡・九州方面)

授業づくり研究会

◇12月8日(土)13時~17時、第45回研究会を久留米大学御井キャンパス学生会館ミーティングルーム3で開催しました。主な内容は、石丸文敏先生(久留米大学)「特別支援教育における協同学習」、河野梢子先生(久留米大学)「カードゲーム『2030SDGs』×協同」でした。参加者は47名でした。

次回は2月2日(土)に開催します。主な内容は、岸本徹也先生(流通科学大学)「大学生主体の高大連携教育」、佐藤正二先生(宮崎大学名誉教授)「SSTを中心としたメンタルヘルス教育」です。プログラム等の詳細は、協同教育研究所「結風」HPを御覧ください。

◇年間スケジュール決定

授業づくり研究会:2019年2月2日(土)、5月18日(土)、10月12日(土)、12月7日(土)。協同学習フェスタ:2019年7月20日(土)。

参加のお申込みは、協同教育研究所(<http://yuikaji.me/wiki.cgi>)からお願いします。当日参加も可能です。

連絡先:安永悟

(yasunaga_satoru@kurume-u.ac.jp)